

# がんば

## 教育日照権

学校長 村田正二

五月中旬、伊藤昇先生の講演会を聞く機会に恵まれた。先生のお話によると、最近東京では、「教育日照権」ということが、さかんに使われているそうである。

「日照権」ということは、戦前にはあまり聞いたこともなかった。戦後、高層建築が建てられるようになってから叫ばれたたようである。

昔から、「日の目を見ない」というのは、めぐまれることのすくない不幸な状態をあらわすことばだった。「日陰者」ということばさえある。日が当るといふことは、私たちの生活にとつては何よりも大切なことなのである。

では、教育日照権が叫ばれたしたのは何が原因だろう。

きびしい受験体制の中でテストにあけくされる教育や、日ましにはげしくなる教育環境の悪化のなかで、とり残され、おちこぼれる子どもたちが多くなった。これではたいへん



と、東京のお母さんたちが叫びだし、みんなに日の当る教育を要求しているのだらう。しかし、教育日照権の問題は東京ばかりではない。日本全国どんなところにも考えられる問題である。忙しさにまぎれて手の届かなかつた子、

報行部  
会友育小三島  
印刷所  
刷部  
印刷  
部  
刷所  
印刷  
所  
印刷  
所

〔第38号〕

一日のうち一度も声をかけてやれなかつた子、顔さえもよく見てやれなかつた子が、どこにもいるのではなからうか。たとえば、朝めしをたべてこない子が三小にもずいぶんあるということである。こんなことでは日の当る教育とはとても言えない。要求するだけでは、日の当る教育は実現されそうにもない。みんながたすけあい、ゆずりあって子どもの生活に、子どもの教育に日をあてていきたい。どうすることが日の当る教育になるのかということになると、個々の子どもによつてちがってくる。このことについて、機会あるごとに話し合い、できることから一つ一つ実践していきたいものである。



「すへってころんで」

を読んで

育友会長 山本 篤五郎

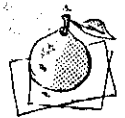


最近、テレビの銀河小説として放送された、「すべってころんで」を読みました。物語りは、万博で有名になった大阪の千里ニュータウンに住む、平凡な中年サラリーマン夫婦と、その二人の子どもたちを中心に、団地の人びとや、親せきの人たちが入りまじつての出来事が、ユーモラスな書きぶり、面白くおもしろくかかれています。

夫の太一は大阪の或る会社の課長を勤める有能なサラリーマンですが、家庭ではあまりパツとしない存在で、むしろ趣味の釣りに生き甲斐を感じている様子です。そして、最近では釣りの仲間と一緒に、まぼろしのへビ「ツチノコ」を生けどることに異常な熱意を傾けています。

主人公の啓子は、もともとのおんびりした性格ですが、夫や子どもたちの世話で忙しく、時々ヒステリなど起こすので、「イラチ」(大阪弁で、イライラする人、せかせかする人のことだそうです。)という

長男の清は高校二年生、ぼつぼつ受験の準備というときに、学生運動に熱中し、学校をサボってデモに参加したり、反戦ビラを配ったりして学校の処分を受けるなど、両親を



### 新年度に想うこと

教養部長 伊藤 八郎

ハラハラさせています。妹の由利子、中学二年生は、兄貴とちがって至って現実的ドライな性格で、またギターが大好きで仲間とともに民放のコンクールを受けて落ちたりします。

都会のどこにでもあるような風景をたくみにえがき出した、どちらかというところ、最近には珍らしい、健全な、常識的な小説ですが、それだけにわたしたちの日常に身近かで親しみを感じました。

「すべって ころんで」というのは、そのような平凡な日常生活を、あれこれ失敗も重ねながらも、一生けん命生きて行こうという姿を言ったものでしょうか。

なかでも、長男の清のことについて、母親の啓子がヤキモキして「イラチ」ぶりを発揮するところや、父親の太一も、内心ではそれなりに気をもみながらも、「ツチノコ」みたいに勝手に分らなくなっているわが子を扱いかねているところなど、身につまされるような思いがしました。「PTA文庫」に入れておきますので、みなさんのご感想もお聞かせいただきたいと思ひます。

教養部のスタートを、心から祝うかのように、五月晴のそよ風に、赤い色のバスは静かに動き出す。——高尾小・大園小への研修視察旅行——

それは、会員の方々とともに他校の活動状況に肌で接し、今後の三小PTAの発展に大きく寄与しようと、車窓にもゆる青々とした田園風景をながめながら、新年度の活動が始まったのです。

教養部の行事としては、このほかに、育友会文庫の回覧や、教育講演会などを例年どおり実施する予定ですが、とくに本年度は、親子習字会、名月俳句会や、コーラスグループ等の復活なども考え、できるものから取りくんできたいと考えております。

親子習字会につきましては、親と子どもと席をならべて、習字をかき、七夕祭を三小の庭で催したらとも思っています。

名月俳句会には、すすきの穂に、だんご等もそなえ、子どもとともに、丁事をおし

て豊かな情緒を味合ってみたらと思ひます。

コーラスグループができれば、その日に発表会でも開けたらと、夢みしたいなことですが実行できぬものだろうかひとりで想いを走らせておるところであります。

最後に研修旅行につきましては、近年にない多くの方々参加をいただきまして、町内代議員の方々の、ひとかたならぬご協力に對しまして深く感謝申しあげてやみません。

本年度、未熟な私が、教養部長という、大任をおおせつかり、とまどっているところでありますが、本校PTAの発展のために、精いっぱい努力をしていきたいものとの心を新にしているところであります。

どうか、会員皆様のご指導とご協力をお願い申しあげます。



### 高尾小学校 訪問記

教養部 久保 亨

三小育友会の研修旅行は天候に恵まれ、一三〇名の参加者を得、バス二台に分乗し、五月十日(木)午前七時三〇分、定刻に湊広場を出発した。補助席に二人掛けしてもらい窮屈な思いを多くの方々にしていたと聞いてしまった。

九時二五分、予定の時間より少々早目に高尾小学校の正門へ到着。三小育友会の参加者は人数が多かったため、もう一台のバスは大園小学校を見学することになり、一号車と二号車は分れ分れになってしまった。

私共の高尾・大園小学校訪問は各一時間とし、学校の見学、各々の育友会活動を伺い、交通公園で一諸になることにしていたのであったが、高尾小学校の場合、あまりにもよく準備されていたので、その場で急きょ予定を変更せざるを得なくなり、大園小学校へ行かれた方々には大変迷惑をかけてしまった。

集会場もは、高尾小学校育



成会の会長他四〇名の方々が私共を迎えて下さり森田副会長より開会宣言があり、山田会長の挨拶、六十才近い会長はとてもお元気で手際よく育成会の活動を説明して下さいました。「以前は専門部中心の活動であったが、三年前より学年別の活動に移り、特に学年に応じた子供の学習、しつけを親として研究している。これが育成会本来の姿ではないだろうか。」と語られた。又評議員会も専門部と学年評議員会とに分れ、各々独自の活動をしている由、今後の三小育友会の在り方に示唆を与えられた。

私共の山本会長は体育館建設の課題等あるので色々教えていたときたいと挨拶をされ、高尾小学校長は「私共の小学校は十五年の歴史しかない、歴史ある鳥原三小に多く学びたい。」と語られた。

その後、分科会に移り十一時十分まで大変貴重な意見が交換された。もう少し時間が

が ん ば

(3)

あったらと、打合せを充分し  
ていなかった責任を痛感した。  
私は教養部の部会にも出席  
した。高尾小学校は文化部と  
いう名称で呼ばれ、レクレ  
ーション部、学年活動部等が分  
れたので、学校全体の講演会  
を年一回、市外見学、市内見  
学を各々年一回する程度と云  
っておられた。

三小の場合育友会文庫活動  
が毎年続けられているが、高  
尾小学校の場合、県立図書館  
より学校へ図書が回覧され、  
読もうと思えばいつでも利用  
できるようになっていた。  
子供達の図書も充実してお  
り永井図書館も近くにあるの  
で子供達はそれらを充分利用  
している由、三小の場合、も  
っと考えられなければならな  
いと思った。

高尾小学校はサラリーマン  
家庭が多いため育成会活動は  
母親によって昼間行われてお  
り父親の出席率が悪い点、ど  
こも同じと思った。又役員に  
全く新しい人が選ばれ、長期  
計画が立てられずに困ってお  
られた。

今回の旅行で感じたことは、  
育友会活動は計画性をもって  
なされる必要があるというこ

とだった。教養の準備不足  
のためデパートでの買物がで  
きなかったり、途中で時間の  
変更をして多くの方々に御迷  
惑をおかけしたことを本当に  
申し訳なく思っている。  
しかし、このような不手際  
が今後よりよく生かされ、よ  
り充実した育友会活動となる  
よう願って止まない。



昭和48年5月10日 研修旅行

野母半島の先端に造られた  
熱帯植物園は、私共を常夏の  
国ハワイへ連れて行ってけれ  
た。フラダンスこそなかった  
が、四年前に訪れたハワイよ  
り素晴らしい美観を呈していた。  
バスの中で元島さんより伺  
った小さな親切運動の話、子  
供会の大切さなど、凡て胸を  
打つものばかりだった。

新しい土地で一年生に入学して

一年一組 三枝 禎子

四月に島原に転動して何も  
わからない私達にとって長女  
の小学校入学、親にとりまし  
てもホッとする反面、何と  
なく不安でした。が……それ  
以上に長女は新しい土地で友  
達もなく、一年生に入学する  
不安がずいぶんあったようで  
す。あらかじめ小学校へは、  
こちらに来てすぐつれて行き  
ましたが、幼稚園と違い色彩  
の乏しい小学校を見、淋しさ  
はすぐ顔に現われ、早く小学  
校の生活になれてくれること  
を祈りました。もう一つの不  
安は都会に住んでいました私  
たちにとって、新聞で、いや  
身近で小学校の低学年の児童  
がいたづらされたと云うニュ  
ースを何度ともなく見聞しま  
したので、学校で定められた  
人通りのほとんどない細い道  
を一人で帰らねばならない不  
安……。そんな親の気持が子  
供に伝わるのか最初の一週間  
は何となく元気がありません  
でした。それから早や二ヶ月  
もあつという間に過ぎ去り、  
親の心配をよそに、毎朝、朝  
寝坊の私をとますると起し、

近所の高学年のお姉さんが迎  
えに来て下さるのを、まだか  
まだかとランドセルを背負っ  
て待っている長女を見るにつ  
け胸をなでおろしています。  
この頃は道もすっきり憶え  
一人で元気に帰り、時には重  
いランドセルで頬を真赤にし  
学校で勉強したこと、給食の  
こと等、少しももらさないよ  
うにと一生懸命話す生き生き  
とした長女を見て、幼稚園の  
ときと違って何となく一段と  
成長したようで、今までの私  
の不安も一気に払いのけられ  
ました。

親の云う事は聞かずとも、  
先生のおっしゃることは素直  
に「はい」と聞く長女に、妹  
とけんかをするや先生に云い  
ますよ……なんて時々はおど  
したりしている自分を見るに  
つけ、子供と同様に私もやっ  
とこちらに落着いたという感  
じが致しております。

この頃は子供の「たゞいま」  
の声でその日の学校での様子  
が少し分るようになり、今日  
も又「たゞいま」という元気  
な声が聞えるのを楽しみに、  
首を長くして待っています。

# 新入学によせて

一年三組 宮副亮典

入学を前にして、新しく買ってやった学用品をランドセルから取り出したり、机の前で座って、そわそわしていた長男も毎日元気に学校に通うようになって二ヶ月余り過ぎた。

私のように小学一年生で初めて社会生活を体験したのと

違い、長男は三年間の幼稚園生活を過ぎたためか、或は最近の情報過剰の世の中に育つためか、(一般的にこのことは他の子供達についても言えることだが)ずっと場なれもして、それだけ私の新入時と比較して、感激も緊張感もずっと少ないように思われる。しかしそれでも入学当初の頃は、これまでとは違った環境の変化と、一年生になったという子供なりの自覚で多少は緊張している様子であった。

入学して二ヶ月も経つと、そろそろ学校の基礎的な生活態度や集団の場にも漸く馴れた様子で、学校のことを断片的に話すようになった。学習もいよいよ始まったのか家内は下校後、復習をするように

言っているのだが、本人はまだ勉強に関心がないのか、家庭に帰ると解放感が先立つのか、机に坐ることはめずらしく、幼稚園に通っているすぐ下の弟とふざけたり、外で友達と遊んだり、テレビの怪獣映画に専ら関心が大きい。これまでの私は毎日の忙しさにとりまぎれて、ゆっくり子供と遊んでやったり、話をしたりする暇もなく、時には暇はあっても、子供の教育とかしつけとかこまごましたものは母親の任務だと考えていた。しかし小学校に入ると、これからは多勢の集団の中で、いろいろな人間関係に接して社会生活を送っていく上での知識を身につけていく過程の中で、私も父親不在にならぬように、時には子供の世界に溶け込んで、じっくり対話を持たないと考えている。そうして、これからの予想もつかない急激な社会変動に適応していきける人間性をつちかかってやりたいと、少なからず念願している。



## 夏は

霊南町 吉田英子

夏は  
アポロンの戦車にのって  
海という海を渡り  
空という空を駆けめぐる

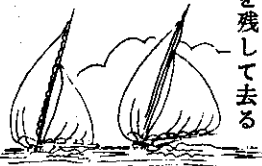
夏は

いたずら好きの彼は  
黄金の矢をもって  
私の胸を射ぬき

私の心を炎と燃えさせ  
そしてあっさり行ってしまふ

夏は

赤銅色の肌に  
思い出のペンダントをさげ  
いつか私に  
さりげない一瞥をあたえ  
ると  
冷たい夕風を残して去る



四月からだだったと思いが、私たちの町内の小学生は早朝トレーニングを、自主的に始めました。公園が近いという利点もあって、毎朝、六時から約三十分、かけ足やキックボールなどをするようになりなりました。

熱心な指導員の協力や、町内の若い方の協力もあって、雨の日以外は、毎朝六時になると、三々五々集まって来ます。

この頃では、集まって来る声や足音で目覚めて出かけるようになりなりました。

毎月、第四日曜日に関くことも相談会でも、このトレーニングのあり方は、反省し、修正されながら続いています。自分たちで決めたことへの責任と喜びが、この毎朝のトレーニングを支えているような気がします。

## 子ども会に思う

議員 代米新 山桃

「毎朝は、無理ではなからうか。」「疲れすぎではないやしないか。」と、親同志は少し分気をもみましたが、二ヶ月を過ぎたこの頃は、喜々として出かける子を見てそんな心配は、なくなつたようです。今のところ、指導者の早起きが問題です。我家でも、時には早起きして一緒にいること、他の人に甘えっぱなしになっていきます。

毎月のごも相談会で、一つずつ、何かみんなの約束を決めるようにしています。今月は、「あいさつをしよう」と言うことで、集団登校に集まることもたちから、さわやかで、元気な「おはようございませう」が、聞けるようになったことも収穫の一つと言えるようにです。

子どもにやる気を起こさせ、町内の子どもが、みんなできとめ合えるような子ども会になるよう、これからは先輩役員が築いてくださった、育友会員の力強い協力態勢を生かしながら、かけ出し代議員として、努力を続けようと思っています。



# 修学旅行

六年一組 鈴木 充佐子

バスは、島原を出発して、もう松島まで来た。次は、いよいよ展望台の第一見学所だ。そう思うと私は、もう胸が、



た。みんないっせいに、バスの外へとびだしていった。班長は、さわぐみんなを必死でならべていた。

まわりには、しんじゅの絵がまるで私たちをむかえるようににたっていた。すこしのぼったところで、こんどはきねんさつえいだ。私は、一生の思いでだからと思って、しんけんな顔をしてうつつた。

展望台の上では、美しい五つの島々をつなぐ、天草五橋を見てきた。

今度は、展望台を出発して立野の赤水で弁当だ。そのとちゅうでは、見るだけでなく現に五、四、三、二、一号と橋を通ってきた。立野では、美しいしばふの中で弁当を食べた。私は、食べるのがおそかったので、食べてしまうとすぐ出発だった。あまりたくさんべんとりをたべたので、ようだろうと思っていたが、みんなにぎやかだったからぜんぜんよわなかった。

これから、待ちに待った阿蘇に行くのだ。阿蘇の噴火口は、テレビでよくみるが、自分の目でじかに見るのは、生まれてはじめてなので、待ちどうしくて、立野から、阿蘇

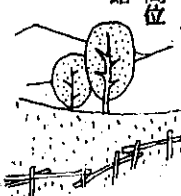
までがすく長く感じられた。

阿蘇についた時、ロープウェイで上まで登り、はっきりとこの目で、大きなあなを噴き、近づいたらおちるようですごくこわかった。先生が、「ここは、八千度の熱があるからここからおちた人は、ひとたまりもなくやけてしまうよ。」といわれたので、ますますこわくなったので、ぼうにしがみつこうようにして見物した。帰る時に石がごろごろしていたので、鉄本さんにしがみつこうようにしており、おりてきたら班ごとにまとまってまた出発だ。

草千里で、きねんさつえいがおわったらおもしろいってあそんだ。梅林先生は、「山の上のぼるな」といって、たのびにみんなのぼって、西田先生までいっしょにのぼっていった。私は、直子さんと、「悪いねエ。先生からして、登りよらすよ。」といっていた。おもしろい遊んだあとは、今日最後の空港だ。空港では、鉄のところ、その日と自分の名前を書いてきた。石本君が、ぐあいわるそうだったので、はげましてや

ろうと思っ、おもしろい顔をしたり、話をしたがためだったの、他の男子にたのもうと思っ、が、「そんなことはどうでもいい。いつかおるだろう。」といった顔つきで、石本君に目をくれようともしなかった。が、私たちがひこう機がそろそろ出発するころなので、石本君はおいて手すりに近づいた。その時、美加さんが息をきらせて走ってきた。

「あんたたちも、本多さんと二人で写真をうつしてもらったら。」と言ったので、私は急いでなかよしの本多さんと二人で写してもらった。それから急いでひこう機をみたら、もう動きはじめていた。ひこう機のセブンスリーセブンは、かっそう路を大きく曲がりどびさっていった。私たちは、セブンスリーセブンを見おっ、バスで一時間位走って、旅館についた。



# 阿蘇山を見学して

六年四組 片山実美

たのしかった修学旅行の見学で一番印象に残ったのが阿蘇山の見学でした。バスで外輪山の中へはいり中岳のふもとまで来ました。これからロープウェイで頂上まで行くのです。風がひどく、はだ寒い感じでした。ロープウェイで

四分ほどいくともう頂上です。さっきより風がひどく、さむくてふるえています。火口はいいよりのないくらい大きく、ものすごい音、もうもうと広がるけむり、私は一時、何もいえずにあっけにとられていました。

もう何も考えられません、初めて見た自然のすばらしいようがありませんでした。火口の底を見たいと思っていました。体をのりだして見る

と底にはあながあいて、そのふちは赤い色でした。もう一度家族できてみたいなと思いました。家へ帰って、父や母にねだってみようかな。弟に言ったら、こんど休みの日に行こうよ。などと言うだろうな。今はみんな何をしているかな、弟は友だちと遊んでいるだろうな。おとうさんは、今いそがしいかしら、もしかしたらおかあさんは、「今ごろ実美ちゃんほどのへんにいるのかしら。」なんてことを考えているのかもしれない。私は少しホームシックになったみたいでした。でもそんなことは、よう岩をひろうのでわすれてしまいました。よう岩とアスファルトをまちがってひろう人もありました。あとで、これ油くさい、なんでいってすてる人もいたし、いじをはってもっていこうという人もいました。

阿蘇 あのだき、あの音、一生わすれることはできないでしょう。

## 運転手から見た

### 修学旅行

新山 柴田雄二

先日の修学旅行にお供致しました運転手として何のサービスも出来ませんでした。が、何だか大役を果たしてホッとしています。

天候の方も都合で、目的の阿蘇登山も火口まで見学できて何よりでした。数多くの修学旅行で最近火口まで見学出来たのは三小と四小の二校程度で一割弱です。三小旅行の翌日から阿蘇は登山禁止令が出て他校の生徒さん達は非常にお気毒でした。これも、ひとえに校長先生を始め諸先生、御父兄の御精進のためものと察し上げ、私達にまで楽しい一頁を綴らせていただきました事に對しまして厚く御礼を申し上げます。

れないでしょうが、私の立場ではケガさえなければ許してやりたい気持ち一杯です。最近の旅館のマクラは投げても破れないように作ってある様です。……楽しい旅行でした。

## 「母心」を 読んで



姪子鼻 久保良子

著者、高瀬広居は寺院に生れ、現在NHKプロデューサー等を経て評論家となっている人。彼は冒頭で、ふるさとを私共が想う時、生家を包む自然の風物に想いを走せ、そして行きつく場所は母屋であり、そこに母の姿を見出して安堵すると述べている。

子供が外出先より帰り先ず最初にさがし求めるものは母であり、もし母が家に居なければどんなにか空虚な寂しい思いをすることだろうと。

近年、女性解放運動とか主婦は家事・育児にわずらわされず合理的に、要領よく生活しよう、家の中は丸く掃き、洗濯機でパンツとふきんを一諸に洗い、ついでに子供

育所を沢山作ってもらい育児は他人に任せ、母は外の知識をより多く吸収し、男性と肩を並べて職場への進出をめざそうという風潮の強いことに著者は批判を加えている。

「自分を生かす」「自分の生きがい」を得るために女・妻・主婦であることを迷い呪っている母親が今どんなに沢山出現していることか。しかも、そんな母親が無責任な子捨てとか蒸発に見られ、家事・育児をうとましい仕事とさげすんでいる母親は本當の母心を持った女性ではないと云う。著者は「無心」である母心を持つようにと繰り返して訴えている。「無心」は宗教的な深い意味を持つ言葉として私は考えさせられた。母は己れを無にすることによって家庭の一人一人を生かしてゆくことのできる尊い人であると述べている。

進歩的であると思われている母親、又そうなりたいとあせっている母親達に「母心」とは、じゅんじゅんと悟すように語りかけている本であり母である自分が、今家庭で何を要求されているのだろうか。と問い、考え直す必要を、又母であることの誇りと責任を一層強く考えさせてくれる本です。



新しい先生の紹介

紹介



井ノ子昌子先生 (四年一組担任)



山田 勝子先生 (養護教諭)



古賀スエコ先生 (一年一組担任)



前田 和美先生 (三年二組担任)



大浦 道子先生 (五年四組担任)



菅 三郎先生 (学校事務職員)

PTA文庫の巡回について



本年度も左記の日程により文庫を巡回いたしますのでご利用のほどお願いいたします。

町内	保管場所	期日
新山東	中尾 利夫宅	6/20 ~ 7/17
新山西	松隈 保吉宅	7/18 ~ 8/13
崩山	池田 光安宅	8/14 ~ 9/10
坂上	隈部 絢宅	6/20 ~ 7/31
坂下	坂本 博幸宅	8/1 ~ 9/10
八幡上	本嶋 幸男宅	6/20 ~ 7/31
八幡下	片山 実宅	6/20 ~ 7/31
栄町	松本 隆之宅	8/1 ~ 9/10
桃山	児島 善子宅	6/20 ~ 7/31
霊南	吉田 重信宅	8/1 ~ 9/10
蛭子町	吉田和一郎宅	6/20 ~ 7/17
白土上	島 勲夫宅	7/18 ~ 8/13
白土下	原 一郎宅	8/14 ~ 9/10
浦田上	坂本 政幸宅	6/20 ~ 7/31
浦田上	井上 諭吉宅	8/1 ~ 9/10
有舟	塚野ミサエ宅	6/20 ~ 7/17
津町	牧 国義宅	7/18 ~ 8/13
元舟津	松本 正勝宅	8/14 ~ 9/10
広馬場上	本多 徳行宅	6/20 ~ 7/17
広馬場下	本多 慶次宅	7/18 ~ 8/13
湊新地	島 政助宅	8/14 ~ 9/10

中組 北島 鉄雄宅 6/20 ~ 7/17  
 蛭子鼻 久保 亨宅 7/18 ~ 8/13  
 南風泊 松尾 昭和宅 8/14 ~ 9/10  
 川尻 山本篤五郎宅 6/20 ~ 7/17  
 下川尻北 池田 秀吉宅 7/18 ~ 8/13  
 下川尻南 荒木 孝宅 8/14 ~ 9/10

なお、さいごの町内は、めんどうですが学校までご返却をお願いいたします。  
 本年度も、新しく本を購入し、巡回いたします。

「サンダサン八番娼館」  
 「母にささげる詩」  
 「父心」  
 「けっばり先生」

ほか、おもしろい本もたくさんいれて巡回しています。

献本のお知らせ

山本会長さんより、たくさん本をいただきました。紙面をかりて厚くお礼申しあげます。(その一部を紹介しますと)

- 「私にとって幸福とは」
- 「現代の家庭と学校」
- 「すてきなパパすばらしいママ」
- 「教育改革の時代」

ほか、百余冊です。この本も巡回いたしておりますので、ご利用のほどお願いいたします。

教養部 (伊藤八郎)

お知らせ

教養部

都会とちがって文化的な行事の少ないわたしたちのために、次のような催しが行なわれています。お互いの教養を高め、人生を豊かにするため、どうかくり合わせてご出席ください。何れも入場無料どなたでも自由に参加できます。

「市民文化講座」

毎月中旬頃の日曜日、午後二時頃からおもに「島原公民館」で行なわれます。各界の専門の方がたからお得意のテーマについて分りやすくお話があります。

「文化連盟の読書会」

毎月十八日頃の夜、桜町の親和銀行の済美(さいび)寮で開かれます。

新刊書の紹介と、四月からは、カセットテープによる、耳から聞く「万葉集講座」が行なわれています。

編集後記

原稿ありがとうございました。また会員の皆さまにお願いましたご投稿も多数協力があり、部員一同大へん感謝しています。今後とも皆さま方のご協力をお願いいたします。